へ13
3219
1

特
へ13
3219
1
昭和十年
七月二日
購求

春月

重宝記

胎衣を納むるには男は墨筆女は糸針にて其年の天徳星
月徳星の吉方ふむらひて深く埋めこの二字を笑ひて唱ゑ吉法
尤人のふるねは人埋めそのうへをよく踏たてこまをれば
その人長命こそ病ありこれを鳥獣
堀出して食ひその人悪死をする
虫ゲ食ひ水中へ捨れば悪疫流病
されば社廟 汚水 井戸 竈 街ちくみ
うづむべうらだの人のふみ踏くさるればその
主背さうだ又これ流水ふるものあれど是あの
ことわせまうたとん 天子の御胎衣は稲荷の山加茂
ようぜ
吉田山この三所へ納めまくべたとん

胎衣

御所奉公東日記初編序

夫天下ハ大戒二有其一ハ命也其一ハ義也子の親を愛ス命也
臣の君ハ事ハ義也左あるハ源右幕下後二代三代の時政
思ヘバ其治亂草の葉の戦々と表裏するゲ如し然ど君を
ハ梶原をそしりあして多く誅せらる唯々無慙の死を遂
なるハ二代の羽林三代の君及び畠山父子 和田の一族局松島女
あり是等の物語りいと長ければ嗣編ゴふ已く綴り孝忠
孝の手本ともあせば先此初ハ時政夫婦の新悪重成の
密謀不道放逸を誌せり

嘉永七甲寅
初春 新鐫

万亭應賀蔵

靖倉武將右大臣實朝卿

此君は頼朝卿の二男頼家卿の御令息あて明君はゐらしく

實朝卿御墓所

此姫は坊門前大納言信清卿の御娘にて京都より元久元甲子年十二月十日ゆ鎌倉へ御下着あり實朝卿支めし后落飾しめ

二十八歳

北條時政室牧方

此人奥州時政の後妻にて邪智奸曲少なし

風俗重威に通ず忠臣の重恩義成聖をそなへ忠の臣と誉れ頼家卿に武さ天朝に仕へ後の祭時の忠義ふかし

尼御前室老女河波局

此女中と誠忠の意あり朝政卿に敵々御危難を免れしの働きゑ

以前諸臣の誅戮を助け御所比女中の難を救い頼家卿のうまれ匿比姫をのり立一其心学ぶ

ちうく常の女の及ぶ所ふあらぐ

北條遠江守平時政

此臣ハ鎌倉草創の武士なり

悪源太義朝政子頼朝卿御母

二代の君の執權となる元久二年閏二月廿日出家あり北條入道明寂と号伊豆の北条に住む七十八歳にて

稲毛三郎重成

辛未子孫執權の職を續ぐ

此臣ハ畠山重忠の従弟なりそれ忠臣は二君に仕ふ諸臣は忠義を諫し重忠の一族ならびに無勲の死を遂ぐ終ふ

悪源太義朝

諸臣の又ふ刺る

尼御台政子御前

此御方ハ時政の娘にて聰明なる卿

嫉妬の愚念ある二代三代の君ハ簾中にて政子を聞られ尼将軍とゝふ法名を如實と号し上洛して

従三位となり又三位にのぼり

六十九歳にて嘉祥元年七月逝去

頼家卿遺紀念姫君

此姫ハ頼家卿召仕ふ女中に密ふ位る

なを君他界の翌年御出生あれど御身弱ふある由尼公ふくいなりぬ廿八歳の時四代の君の御台となりて竹御所比企谷に住まゝ

又四代の君頼經卿

御年十八

善哉君　后ふ公暁禪師

▲重長の娘あり四歳の子ありて幼名を善哉君と号す　鶴岡若宮

公暁僧正の弟子とあり公暁と号す　別當職とあり建保五年正月廿日

▲父の仇とて実朝卿を長尾新六ふ誅せらる御年十九歳

此君の頼家卿の御子にして御腹の加茂六郎

鎌倉三代将軍実朝公頼家卿　后ふ　二品禪室

此君の頼朝卿の御嫡男御母公は平の政子蹴鞠を好と伊豆の奥野つゞて富士野ふ狩を仕ゐし第三代の武将なりそして伊豆の修善寺ふ被ゆられ讒者に為り御自殺あり御年二十三歳なり

局松島待女賤機

京上臈松島局

此女は洛外矢瀬の生れなれども幼きより松島の親の恵をうけ契約は太夫を見とゞ居ふつれ鎌倉ふ下り松島自害の後は忠義を尽せり

佐渡守親拳の娘　實朝卿の御墓ふ附下り

和田三男義秀を恋サーふ終ふ其約を日御墓ふ方げられ貞操をまもり自害せ。ゆく末は消るぶ8年月の御墓所（書置の末ふ詠る

義秀の墓ふ詠る

東日記
時
重

己未春錦橋堂新板

口中御藥 固齦散 大包代百銅 小包代三銅
一ぬりを一うがえ一うがみ血切 一血ぬぐ一ぬぐきえる
能 ○男女ともの口中ふくれくわ毒ハ

清淨精製 白妙 一包代壱二銅
もこ一ぱつ入 直用されべし
白くなる事妙

寢小便大奇藥 一包代三百銅

美玉百人一首 中本形全一冊 女用文章入

紅梅百人一首 半紙本全一冊 女用文章入

源氏一猛圖會 全 同 撰 冊 同 画

雛鶴笹湯壽 紙摺 山東菴京山作 大本一冊 湯壽豊國画

女中用文玉手箱 中形 全一冊 山東菴京山作

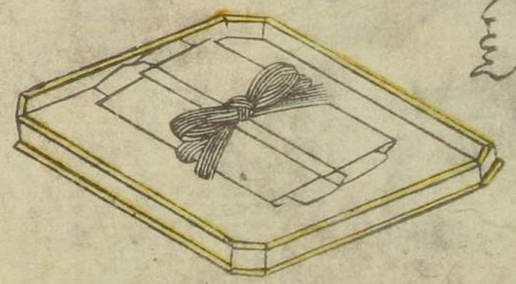
地本錦繪問屋 江戸京傳馬町三丁目 山田屋庄次郎

万亭應賀作
一猛齋芳虎画

重宝記

臍帯をつぐるはじめ生れ子の父竹の刀をもつてつぐまつたく
其跡を結ぶ者つぐべし竹の刀をもつてつぐ事神代よりのことゝ
綾帯は懶れて早く落るあし悪し五六日を乾かして
薬紙よりとるたゞあて剃髪と共ふ
包みよく藏めおくべし たゞれ虫 長旅
つゝけばその主の死の表なり長旅
或ひは所方知れざるあり安否をあらんと
なるとなかれその主の綾帯紙なり出して
見うべし生ふ髪ならばれば毒事なり

懶れ又ものとなれば其人



臍帯

鞭向八幡宮

信
姫
歌

光
保

己未初春錦橋堂新板目録

教草女房形氣　十九編　山東菴京山作
二十編　梅蝶樓國貞画

はつ春猫手染帯　十編　金水作　一名芳男
二十編　國貞画　吾妻下

五拾三驛　初編より雪住作
六編ヲ芳虎画

御所拳公　なりた日記　九編　万亭應賀作
十編　孟齋好寅画

宮城野信夫　敵討白石咄　全　孟齋作
二冊　好寅画

無病長寿　養生手引草　上　年翁京山作
下　立齋廣重画

伊賀越敵討物語　全　孟齋作
二冊　好寅画

造紙櫻義紙　十編　梅孝作
揃　芳虎画

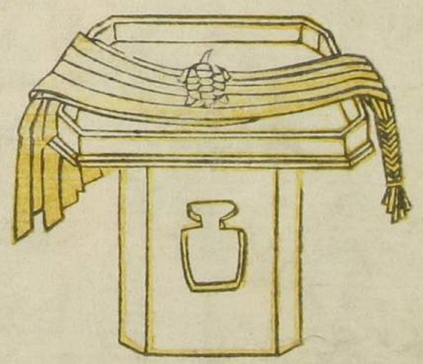
金　地本錦繪問屋　南傳馬町三丁目　山田屋庄次郎

あいすまぬ日記二編
万亭應賀作
中橋山庄版

重宝記

○元服かゐ孫つぎ髪あげ袴着帯とき
きのほの外祝ひ事も今時ハ都へ
十一月十五日ハ限りなるゆうふあり元来
昔ハこの日ハ限るべからざれども年中の
うち吉日を撰べとゆふうど障りのある
ものあり因てこれハ陰陽師の書よりこれ
ぬきが此日をわけて年中祝ひ事ハ
はなはだ大吉日なり

正月十一日　二月九日　三月七日　四月五日　五月三日　六月朔日
七月廿五日　八月廿二日　九月廿九日　十月十合　十月十五日



御所奉公東日記二編叙

夫親子兄弟とハいへども其性の違あること近き先ハ清盛重盛の父子あり其行粧の善と悪とハ諸書ハ出て能人の知所叔鎌倉の時政ハ二位の禅尼時政夫婦息義時あり其行不正なりしとど泰時時頼の聖賢ありて政道をよく正し又重忠重保の父子及び義盛義秀の父子ハ其性更ハ劣ぢ君を重んじ下を哀れども重忠ハ従弟なる重成ハ伐せられ義盛も従父兄弟なる義村の不義ハかり此両家の一族等ハ一時ハ滅亡なりしと天命とハ言ながら誠忠無二の士を豈天道の助ざる神佛ハどろ守らざる是ハ所謂佛家ハ釋過去の業とものべたり左をあしき善ハ善ハて悪ハ悪ハて末代まで其名の朽ぬを思ハべし此史も童女達ハ見せしめて聊善を勧るのみ

嘉永五壬子夏稿成
同　七甲寅初春発市

万亭應賀誌

後京極摂政藤原良經卿北政所

頼朝卿の姉君権中納言藤原の能保卿の簾中にて此君を産ませ給ひ

浪經卿へ嫁させ給ひ鎌倉三代實朝卿との後妻の御續き

御臺所に附添ひて鎌倉に下向あり

尼御臺中老環局

此女中は阿波の局の次ぎに大奥の支配をつとめ尤忠義の者なれども牧の方の讒言に無実の

御前を止めらる

畠山六郎重保

重忠の嫡子に父に劣ぬ

大剛の者なり實朝卿の御臺所御迎に登りて京の守護人

小山朝雅と云

相摸次郎朝時

北条義時の次男泰時の実弟好色にて御臺所の上臈松島と密慕し義秀と

後に名越式部丞とのゝ

云 評論のこと牧の方重成の讒に由り濱に戦死せらるの時元久二年六月廿一日

朝比奈三郎義秀

和田左衛門尉平義盛の三男にして母は巴女

勇剛

勇みて忠孝及び五常を重んず類なき美男子

一屋松島を慕ひ嫁せんと呼びしが尼君は妨げられて遂に建保元年和田合戦のとき怪力を以て敵を討ちぬ

一門

亡び後房州に渡り又外国に行

と云ふ

時政郎等千賀九郎

牧の方の腹心なるべき悪を働き元久二年閏七月十九日北条名越の亭に京風歌道の御遊あり此時實朝卿を討奉らんとせし結城七郎朝光を生捕る

和田左衛門尉義盛妻巴女

此婦人は上野の木曽殿の妾なりしが義盛生捕て軍功の賞に如て玉の妻となりて武勇美の聞え隠なし

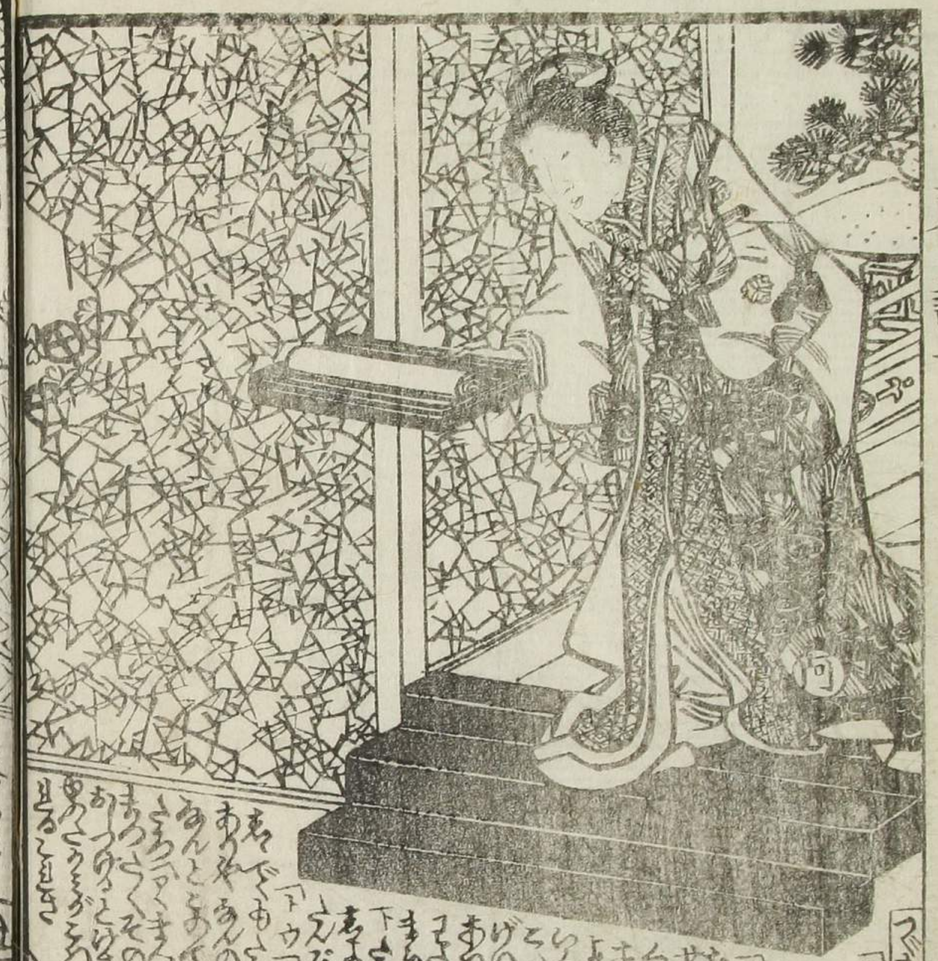
これ義秀の母なり

浅利與市源義遠妻坂額女

越後國の住人城九郎

資國の娘なりしも武勇大力にして烏坂合戦に屋大軍を討て与市を生捕る

妻と終に離れて今見る



つぎあるひる

「あるもの

應賀作　芳虎画

己未春錦橋堂新板

口中御藥　固齦散　大包代百銅　小包代三銅

切一ぬけた一ふくむ一ふくみ血一血ひとつ一ぬらさてまま能

清淨精製　白妙　一包代　壱二銅

まことにて入金用あれば

寢八便大奇藥　一包代三百銅

美玉百人一首　中本形全一冊　女用文章入

紅梅百人一首　半紙本全一冊　女用文章入

源氏一猛圖會　全同　撰　冊同　画

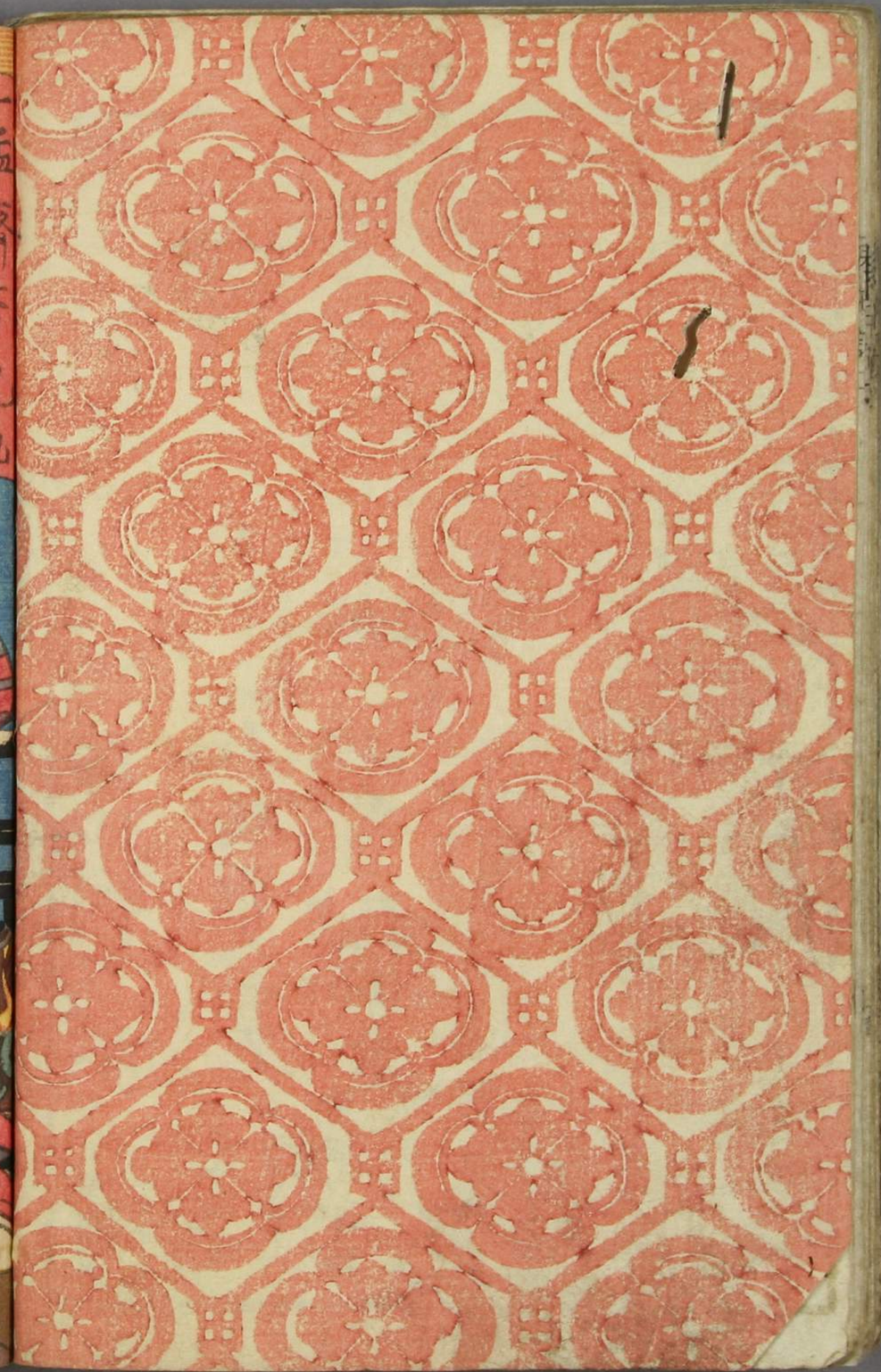
雛鶴笹湯壽　紅摺大本一冊　山東菴京山作　一陽齋豊國画

女用文玉箱　中本全冊　東菴京山作

江戸中橋廣小路　錦繪屋　山田屋庄次郎

一猛齋芳虎画

下



重宝記

○やけどまたは火傷の
火の中なる灰のかさまり成
湯の中へいれそれ成つもりし
あふようながらた

○病犬ゐ食れ　大物業なり

たる業ハさあぐあれども
取ふてよろしかるく唐仁成業ハ
まりつぶ〜疵口へたりつあるその上へ灸を
まんをは是まれるの者くたくつてもりぢれば帰坐の
まゐ合ゐ我人の為ふるのハ物ろ少ゐよろぎを知ひてよろとも

環
鳴

阿

次へ

つぎ
千賀ぢ九郎
牧
成
九

教草女房形氣 十九編 山東菴京山作 二十編 梅蝶樓國貞画

利倡手染紫 十九編 金水作 二十編 國貞画

五拾三驛 初編より雪住作 一名春芳 吾妻下 六編ヨリ芳虎画

御所拳公 紀 九編 万亭應賀作 十編 孟齋好寅画

宮城野信夫 敵討白石咄 全二冊 孟齋作 好寅画

伊賀越敵討物語 全二冊 孟齋作 好寅画

無病長壽養生手引草 上中下 立齋廣重画

逢紫櫻義氏 十編 梅彦作 揃芳虎画

江戸中橋廣小路 錦繪問屋 地本 山田屋庄次郎

茅屋集

編